

散歩道 ~ 福釜松平と箕輪・高棚の社寺めぐり ~



本図の位置



安祥文化のさと
安城市歴史博物館
安城市埋蔵文化財センター

※掲載されている文化財の中には、個人所有のものがあり、生活の場でもあります。見学の際には所有者に承諾を得たり、ごみは持ち帰ったりするなどマナーを守るようお願いいたします。また、個人宅や学校を訪問するときも、必ず許可を得るようにお願いします。

安城市歴史博物館・安城市埋蔵文化財センター



〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
歴史博物館 TEL 0566-77-6655 FAX 0566-77-6600
埋蔵文化財センター TEL 0566-77-4490 FAX 0566-77-6600
URL <http://www.city.anjo.aichi.jp>

利用のご案内

- 開館時間 AM9:00~PM5:00 (入館時間PM4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館) 年末・年始(12/28~1/4)

歴史博物館観覧料

- 【常設展】一般：200円
- 【企画展】無料
- 【特別展】一般：有料(常設展を含む)
- ※中学生以下は無料
- ※団体(20人以上)、障害者は割引有り。

安城

歴史の散歩道

~ 福釜松平と箕輪・高棚の社寺めぐり ~



高棚村絵図 元禄15年(1702) 高棚町内会蔵

安城市教育委員会

安城 歴史の

コース 1周:12km 所要時間:4時間



安城 歴史の散歩道

～ 福釜松平と箕輪・高棚の社寺めぐり～

● 城址

箕輪城址 (市指定)

現在の光明寺境内を中心とした区域に位置し、天文元年(1532)ごろに、浅井治兵衛道介が築城したとされています。浅井氏は近江八幡(滋賀県)の出身で、幡豆郡浅井村に移り、浅井氏を称しました。箕輪城を築いたころ、浅井治兵衛道介は、刈谷の水野氏と組んで松平氏に対抗し、天文11年(1542)の榎前おとけさの戦いで、流れ矢に当たり戦死したと伝えられています。明治時代初頭まで本堂裏に堀の一部が残っていたといわれています。



箕輪城址 (光明寺)

● 社寺

光明寺

元禄2年(1689)に駒場村(現豊田市駒場町)から現在地の北方に移転してきました。真宗大谷派の寺で、享保19年(1734)、「西方山光明寺」と称し、延享元年(1744)、本堂が現在地に建立されました。その後改築を経て現在に至っています。寺域は箕輪城の跡地とほぼ重なります。

山門の左側に道標があり、それには「左にしを(西尾)のてら道(野寺道)、右 ふくかま(福釜)」と記され、伊勢語りで親しくなった友人が、ここで別れを惜しんだといわれています。またこの道標は、江戸時代末期に本證寺の信徒によって建てられたもので、もとは箕輪町新芳畔の旧西尾街道沿いにありました。



光明寺

● 社寺

箕輪神明神社

永禄12年(1569)4月に創建されたと伝えられており、祭神は天照大神です。現在、大祭は毎年10月の最終日曜日に行われています。なお、神社には、貨幣の寛永通宝を貼り付けて塔を描いた「銭塔」絵馬が、松平康永(福釜松平8代)により奉納されています。元禄12年(1699)の銘文があり、市内で確認される最も古い絵馬といえそうです。



道標



箕輪神明神社

● 社寺

福釜神明神社

延宝4年(1676)の棟札の裏書には、永正13年(1516)松平親盛(福釜松平初代)によって創建されたと記されています。伊勢神宮からの勧請であり、祭神は天照大神です。福釜座演舞場を改装した文化会館に保管されている相撲土俵四本柱は、江戸時代の勧進相撲の土俵で組み立てられる櫓を支える柱になります。地方で相撲を興行するには江戸角力元締の許可が必要でした。全国的にも稀で貴重な資料として、市指定の文化財になっています。



福釜神明神社



相撲土俵四本柱

● 社寺

宝泉院

浄土宗の寺として開かれ「清流山宝泉院良心寺」といいます。福釜松平氏の初代城主であった松平親盛が永正12年(1515)に創建し善提寺にもなっています。江戸時代の絵画「絹本著色福釜松平三代像」(市指定)を保存する寺です。本堂の左脇には菅原道真を祀る天神社が鎮座し、寛永16年(1639)創建と伝えられています。

寺の東北角に杉浦源右衛門(1844～1917)の銅像があります。源右衛門は、緻下年期(開墾地等の土地の免租期間)を延長する運動の中心となり、政府関係者に嘆願し、明治34年(1901)、延べ50年の年期延長に成功しました。福釜村長・碧海郡会議員など多数の要職を歴任しました。



宝泉院



杉浦源右衛門銅像



福釜松平氏の墓

宝泉院墓地の東北角に、福釜城主初代松平親盛、二代親次、三代親俊、四代康親、五代康盛の墓が並んでいます。かつて西天にあった「殿様墓地」から令和4年8月に現地に移設されました。また位牌は、初代から四代目までが宝泉院に奉祭され、五代目は東京(台東区)の光照寺にあります。

● 社寺

西岸寺

真宗大谷派で「松林山西岸寺」と称し、松平玄蕃が延徳元年(1489)に創建したと伝えられています。本尊は木造阿弥陀如来立像で、寛文7年(1667)に東本願寺より授けられたものです。室町時代の絵画「絹本著色方便法身尊像」(市指定)を所蔵しています。

松林了観(1862～1932)は、西岸寺住職第14世でありながら、福釜農村青年の風紀改善と教養向上のために、明治22年(1889)、境内に青藍補習夜学校を創設しました。自ら農業に携わり、産業組合の設立にも尽力しました。ちよの夫人は女子教育や幼稚園の開園に貢献したり、その夜学校を世話したりしました。その後学び舎も落成し、大正7年(1918)まで続けられました。松林了観・ちよの夫妻の像が本堂南にあります。



西岸寺



松林了観夫妻の像

● 町名遺跡

町名遺跡釜ヶ淵

昔この付近で、突如、黄金の釜が地中から吹き出したことで、吹釜から福釜という地名になった」という伝承があります。昔の古文書には、「福釜」の文字以外に「富鎌」「福鎌」と記されたものもあります。この地は現在の福釜町釜ヶ淵であり、地名の由来を後世に伝えるために石碑が建てられました。西部公民館の南方約300mの道由川沿いにあります。



町名遺跡釜ヶ淵の碑

● 城址

福釜城址

集落の南方(現在の福釜町蔵前)にあって、東西を川に挟まれた台地の南端に築かれた城です。この城は、松平氏五代長親(安城城第二代城主)が安城城の支城として築きました。長親の二男親盛が永正12年(1515)13歳のとき、この支城を与えられ福釜松平氏が誕生しました。城というより砦のような内容であったようです。城域は東西40間(約73m)、南北50間(約91m)、面積は1,855坪(約6,000㎡)程の方形をしていましたが、現在、城跡の範囲などは不詳です。



福釜城址

● 社寺

高棚薬師堂

このお堂には、高棚村長坂家の祖が桜井村川島の薬師堂から迎えたと伝わる、室町時代の「薬師如来坐像」(市指定)が祀られています。その像は空臨寺(高棚町)に安置されていましたが、文化年間(19世紀初)に現在地にお堂を建てて移されました。明治の初めにこの像が盗難にあったときに左手を破損したと伝えられていますが、令和元年にその部分が修復されました。お堂は明治13年(1880)に再建したと伝えられています。



薬師如来坐像



高棚薬師堂

● 社寺

空臨寺

寺伝によると、弘法大師が平安時代に創建したとされています。当初は真言宗の寺でしたが、親鸞聖人がこの地で布教しており、住職の了證がその教えに感動し、浄土真宗の寺へ転派し初代住職になったと伝えられています。慶長6年(1601)に徳川氏より寺領として境内、山林などが与えられました。現在この寺は、真宗大谷派で山号を中根山と称します。室町時代の「方便法身尊像」をはじめ「九字名号」、「六字名号」、「教行信証文」、「教如上入像」(市指定)などの寺宝があります。(現在は歴史博物館寄託)



空臨寺

● 社寺

高棚神明神社

社伝によれば、桓武天皇の時代、延暦21年(802)ごろ、吉宮と称する高棚地内「学郷67番地」に奉られていました。文保2年(1318)現在の場所に移り、明



石川喜平領徳碑



石川喜平銅像



高棚神明神社

治5年(1872)に村社となりました。祭神は天照大神です。

高棚村の和算家石川喜平(1788～1862)は、関流和算家で合歡木村(現岡崎市)の清水林直に学び、和算の免許を受け、天文学・暦学を学びました。都築弥厚の依頼を受け水路計画の測量調査に取り組み、5年間で完成させました。神社東の喜平公園内に頌徳碑があり、また、高棚小学校の正門付近に銅像があります。